

7月27日のウクライナ情報

安齋育郎

●ミアシャイマー教授、ウクライナのブラックリストに(2022年7月25日)

ウクライナ政府は元米空軍軍人で、シカゴ大学教授のジョン・ミアシャイマー氏らをロシアのプロパガンダを広める人物としてブラックリストに載せました。ミアシャイマー教授は早くからこの戦争の原因はアメリカ側にあることを指摘した知識人ですが、同教授は「”幼い頃、母から「他人が事実と論理でああなたの主張を打ち負かせないと、中傷するのよ」と教わりました。それが今回起こっていることです。彼らの答えは、私にロシアの宣伝屋のレッテルを貼ることでありますが、私はそうではありません」と答えています。同時にブラックリストに載ったエドワード・ルトワク氏はアメリカの国際政治学者で、戦略論や軍事史が専門、また、グレン・グリーンウォルド氏はアメリカのジャーナリスト、弁護士、作家です。

ブラックリストには、ランド・ポールやマクレガー大佐も載っています。マクレガー氏はこの「ウクライナ情報」でも度々紹介してきたようにウクライナに都合の悪い発言していますので「載るべくして載った」のでしょうか、ランド・ポール氏(アメリカ共和党上院議員)は、彼がウクライナへの400億ドルの追加支援に異議を唱えたためと見られます。



●ケルソンで「オデッサ旅団」結成(2022年7月)

大多数はウクライナ市民。「ここは我々の土地だ。ナチのクズどもを一掃する」
<https://youtu.be/kx-1cybh-90>

●今の戦争はこういうもの(2022年7月24日)

<https://twitter.com/Jano661/status/1551594058136834049?t=jWDSFm9Xo51wkKp1SOs7lQ&s=09>

※安齋注:4月にかもがわ出版から『戦争と科学者—知的探求心と非人道性との葛藤』を書いたが、実際に戦争になってしまうと、そんなこと考えてる余裕はない。ひたすら高度な科学技術兵器を使って敵を破壊する。戦争は起こしちゃダメですね。ウクライナ戦争もなぜこんなことが起こったのか、しっかりと教訓を読み取らなければなりません。

下の映像は、ロシアがウクライナのセヴェルスクで米軍の M777 榴弾砲を破壊した様子。
<https://www.youtube.com/watch?v=iblamfzC5ck>

●穀物合意は、軍事作戦を妨げない(ラブロフ、2022年7月26日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は「軍事作戦を妨げるような穀物合意は結んでいない。オデッサの穀物輸出ターミナルと、軍事施設は離れている」と述べた。

●ロシアのラブロフ外相、カイロで重要発言(2022年7月25日)

ラブロフ外相が和平交渉および穀物輸出について発言。

<https://twitter.com/GyotokuShogi/status/1551516531649122304?s=20&t=GemLLaGtVMMRqTXqEBkILA>

24 Jul. 2022 14:03 / Home / Business News

Russia not asking for sanctions removal – Lavrov

Western states should fix the food problems their restrictions have created, foreign minister says



Moscow is not asking for the lifting of sanctions, but urges Western states to fix the problems they have created on the global food market, Russian Foreign Minister Sergey Lavrov said on Sunday.

"We are not asking for the removal of sanctions – those are problems that deserve to be dealt with separately. We will simply develop our economy now by counting on reliable partners and not on those who have once again proved their total incapacity..."

As far as food is concerned, our Western colleagues... should remove the obstacles they themselves have created," the diplomat said after talks with his Egyptian counterpart, Sameh Shoukry, in Egypt.

Russian Foreign Minister Sergei Lavrov speaks during a press conference with his Egyptian counterpart in the capital Cairo, on July 24, 2022. © AFP / Khaled DESOUKI

●ウクライナ女性が語る(2022年4月10日)

「ウクライナ人女性」生活が苦しく月給の半分が暖房費で消えている。そしてジャーナリストの暗殺...。政治を含めあらゆるものが腐敗している。ゼレンスキーは全く民主主義な大統領ではない」

https://twitter.com/monmi_3/status/1513142541868474370?s=20&t=Sz9_GWisTkK_Hvo-UVJbpA

●マリウポリ東部で避難してる人達のインタビュー(パトリック・ランカスター〈再送〉、2022年4月18日)

アメリカの独立ジャーナリストのパトリック・ランカスターさんが地下生活のウクライナの家族にインタビュー。「攻撃してきたのはウクライナ軍だった」

<https://twitter.com/littlemayo/status/1515834508251070465?s=20&t=NRyA3yv7uFCQLWSIyeIx8A>

●ロシア人を麻薬におぼれさせる作戦(2022年6月～7月)

ウクライナが麻薬で汚染されているのはよく知られているが、今回の戦闘でもウクライナ兵士が特殊な麻薬を使って戦闘をしていたとロシア当局が「血液検査」に基づいて正式発表した。

ロシア内務省の情報分析総合センターによると、2014年から2021年にかけて、ロシアでは約7万2000人のウクライナ人が麻薬犯罪で捕まった。ドネツク出身のアルチョームさんもその1人だ。アルチョームさんは現在、麻薬に関する罪でロシア西部オレンブルク近郊の矯正施設で刑に服している。兵役を終えてから数年後、アルチョームさんは「一般人」として何かに取り組もうとした。

見知らぬ人からメッセージが届き、ロシアで配達員として働かないかと誘われた。給料は4万ルーブルと高かった。当時はこのお金で2か月暮らすことができた。1か月半は確実に生活することができ、家族を養うことが可能だった。

アルチョームさんは「私は同意しました。私とやり取りしていた人物は、私にルガンスクに行くよう命じました」と当時を振り返っている。

アルチョームさんによると、ルガンスクで短い面接が行われ、ロシアに派遣された。そしてそこで、麻薬を運ぶことを知ったという。運び屋の募集に関するアルチョームさんの話は、麻薬に関する罪で有罪判決を受けた他のウクライナ人の話ととてもよく似ている。募集の方法は、ほとんど常に同じだった。ウクライナの町の乗合バスや店舗、駅、またインターネットなどに、ロシアでの求人広告が掲載されていた。

2022年6月8日, 16:01



© Sputnik / Sergei Venyavskiy / フォトバンクに移行

8年前のマイダン革命後、ロシアにデザイナードラッグやアンフェタミンのような薬物が流れ込んだ。合成麻薬は90年代のヘロインと同じように人気となった。主にウクライナ人で構成されたグループ「ヒム・プロム」は、1週間に最大0.5トン「合成物」をロシアの各地域に送った。このようにしてウクライナは内部からロシアを破壊する

※安齋注:以前、ゼレンスキー大統領がまるで薬物による幻覚のごとく恍惚状態の映像を送りました。ウクライナの薬物汚染は非常に深刻のようです。2020年5月に発表された最新の世界保健機関データによると、ウクライナの薬物使用死亡者は1,141人で全死者の0.20%に達したそうです。年齢調整死亡率は人口10万人あたり2.20人で、世界ランキングでウクライナは41位です。

●ロシア制圧地域に帰還する人々(2022年7月25日)

ユーロニュースによれば、何千人ものウクライナ人が自発的にウクライナの他の地域から「ロシア占領地域」の自宅に戻ってきていると報告されています。手続きのため何日も待っている人もいます。下の映像は、数千人のウクライナ人が「ロシア軍に占領されたザポリージャ領」に帰還している様子ですが、彼らは家族との再会だけでなく、仕事を求めて戻ってきます。

<https://twitter.com/SergUA63/status/1551237606842814467>

●ラブロフ外相:「我々はウクライナを助ける」(カイロ記者会見、2022年7月25日)

フォーク・シンガーの原伸一さんのラブロフ外相アフリカ訪問の紹介です。

<https://www.youtube.com/watch?v=zwJuYd4PBb4>

●ノーム・チョムスキー、アメリカの情報規制を批判(2022年7月26日)

「今のアメリカはスターリンのソ連時代よりはるかに酷い状態、私たちは今、一種の全体主義文化の中にあり、ソ連よりも情報規制が厳しい」

<https://twitter.com/qiYxogg4tLL5P0R/status/1551787162731167744?t=5XAEPKf-ld9TXTMyezZPjQ&s=09>

※安齋注:チョムスキーは世界的言語学者で、前に紹介したように、「アメリカこそが世界最悪のならず者」とズバリ言っていた人です。また、イラク戦争などさんざん国際違反を犯してきたアメリカにロシアを批判する資格はない、とも言いました。言いたい放題の人です。

●チョムスキーのびっくり発言:「トランプの出番だ」(2022年5月4日)

「ロシア・ウクライナ紛争を煽り、長引かせる方法を模索するのではなく、外交的な解決を推し進めることができる大物政治家が幸運にもいる。その名はドナルド・トランプ」

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1521642781302988800?t=uL5FHRc1qB3MndqeEq3pIQ&s=09>

●クレア・デイリー議員(アイルランド)、EU 議会で吠える(2022年4月9日)

「制裁で軍事紛争が終わることも平和になることもないと歴史が教えている。制裁は人々を苦しめるのであって命を救うものでもない。ウクライナに武器を投入すればするほど戦争は長引き、さらにウクライナ人が死ぬからだ。戦争への答えはさらなる戦争ではなく平和である。砲身で平和はもたらされない。それができるのは外交であり、対話である。」

<https://t.co/kzSMR6O4Xv>

●ウクライナ議会:ロシア国籍希望者を獄に(2022年)

ロシアのパスポートを求めると、ウクライナ人は何年も刑務所に入れられる可能性がある。法案によると、ウクライナ人がロシア国籍を取得しようとする、最高で 15 年の懲役刑に処せられる可能性があります。

●ロシアのパスポートを求める人々の行列(2022年6月1日)



※安齋注:しかし、これもアメリカの国務長官には「強制連行」と映るようです。ブリンケン国務長官は7月13日の声明で、侵略を続けるロシアによってロシアに強制連行されたウクライナ人は「90万~160万人」に上るとの認識を示したということです。アメリカ市民は信じるのだろうか？

●マリウポリ、復興に向かう機運(2022年7月24日)

家を無くした市民の為に住宅建設が急ピッチで進む中、街の通りには賑わいが戻って来つつある。

<https://twitter.com/yiyirobot/status/1551711853927022592?t=V35m6C3GkyFUejGRGsTQg&s=09>

しかし、これも別の解釈をする人々もいる。この映像に出ている人はロシア宣伝屋だという。

マリウポリは45万人都市。ロシアの侵略で人口の半分以上が避難した。人道回廊も機能せず、残された人たちの一部は選別収容所からロシアへ強制連行・拷問・処刑。
現在残っている人たちは水も食料もなく隠れて生きている。
一部の親ロシア派だけが喜んで、こういうプロパガンダ映像に出ている。

●元ベルギー首相の EU 議会での演説(2022年4月7日)

「なぜロシアに対する制裁が効かないのか？制裁は世論が支配する民主主義国家でこそ効果がある。ロシアには世論も民主主義も無い。石炭？口の貿易のたった 3%だ。SWIFT？ロシアの銀行の50%が制裁を逃れた。ロシア全体に制裁フルパッケージを導入しなければ、戦争が続き、ウクライナの犠牲者が増えるだけだ」

<https://twitter.com/AmiWorldTwo/status/1511909547505754115?t=QTn00heAJBVRdpTQ3GA3Dg&s=09>

※安齋注:すごい勢いでまくし立てているから、拍手が出ていることから見ても「勢いに説得される」面があるかもしれませんが、「対ロフルパッケージ制裁」をやって石油から天然ガスから肥料から食料から、ロシアからの輸入は一切ダメなんてやっていたら、今頃ヨーロッパはどうなっていたでしょうか。4月初旬、こういう主張がまだ通ったんでしょうね。戦争に至った原因をよく見極めて、武力や制裁という方法ではなく、NATO の東方拡大方針やウクライナの極勢力の蛮行をやめて、和平の道を探ることこそ大事だったと思います。